

インフルエンザに抗生物質は効きません!!!

【風邪】

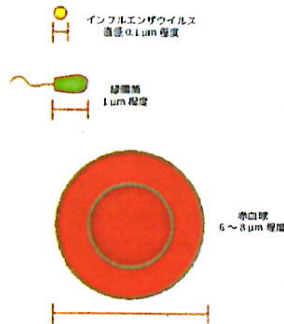
はじめに

最近、ニュースで見かけましたが、ヒトにおいて、風邪で抗生物質を処方する必要がない。そして、その意味のない抗生物質によって、効かない抗生物質が増えて、良い菌までいなくなってしまう、ということ。これは、動物においても同じであると私は考えます。また、抗生物質は細菌には効くけどウイルスには効かないということの認知度の低さに驚きました。ヒトにおける風邪の原因の大半はウイルスといわれています。

細菌とウイルスの違い

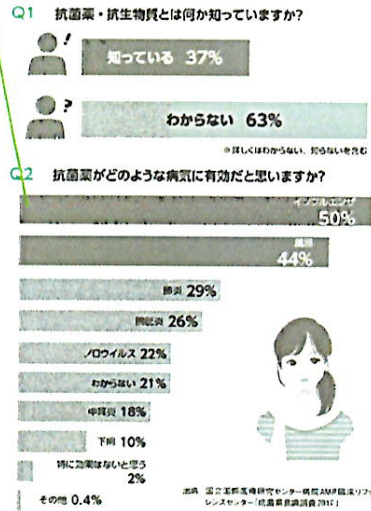
細菌 目で見ることはできない小さな生物で、一つの細胞をもつ。細菌は栄養源さえあれば自分と同じ細菌を複製して増えていくことができます。体の中に侵入して病気を起こす有害な細菌もいますが、一方で生活に有用な細菌も存在します。体には多くの種類の細菌がいて、皮膚の表面や腸の中の環境を保っています。抗生物質によりやっつけることができます。

ウイルス 細菌の50分の1程度の大きさで、とても小さく、自分で細胞を持ちません。ウイルスには細胞がないので、他の細胞に入り込んで生きていきます。体の中にウイルスが侵入すると、細胞の中に入って自分のコピーを作らせ、細胞が破裂してたくさんのウイルスが飛び出し、ほかの細胞に入りこみます。このようにして、ウイルスは増殖していきます。このウイルスを直接やっつける薬はありません。よって、ワクチンによって予防している方も多いのではないのでしょうか。私たちも、インフルエンザが流行る前にワクチン接種にいきますよね。



図表2 抗生物質・抗生物質に対する認識

国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンターによる「抗生物質使用調査2017」でも、「抗生物質・抗生物質とは何か知っていますか?」との問いに、63%が「わからない」と回答。「抗生物質がどんな病気にも有効だと思えますか?」との問いで、最も多かった答えは「インフルエンザ」(50%)、「風邪」(44%)と、多くの人がインフルエンザや風邪に効くと考えていることが明らかになった。



冬はウイルスによる風邪が多い

気温が低くなり、乾燥する冬。そんな冬にはヒトでよく耳にするインフルエンザが流行る頃ですね。インフルエンザとはウイルスによる感染ですね。冬にウイルスの感染が流行る理由は、ウイルスは水分を含んでおり、この水分が乾燥した空気にさらされ蒸発すると、ウイルスは軽くなり、私たちの身の回りを浮遊しはじめます。さらに、冬の寒さで体温が下がると、体の抵抗力が弱り、空气中に浮遊しているウイルスが口や鼻から体内に侵入しやすくなり、風邪にかかりやすくなると考えられています。特に、抵抗力が弱い子牛はウイルスに感染しやすいです。また、このウイルスの感染によって、そのあと細菌やマイコプラズマが感染しやすくなります。よって、複数のウイルスや細菌による呼吸器複合病が発生します。逆に、多くの細菌は湿度を好み、気温は高い方は増殖しやすいため、夏に乳房炎が増えるのは納得がいきますね。

冬において子牛の風邪が流行る場合、まずはウイルスによるものが多いと思います。(ヒトと異なり、原因の特定や肺炎の確定診断を行っていない場合が多いので断定はできません)

じゃあどうしたら?

私たちが風邪をひいたとき、まず解熱鎮痛剤(ベンザブロック、エスタックイブ、バファリン等)を飲むと思います。それと同じで、**まずは消炎剤の使用**をお勧め致します。

具体的に消炎剤とは、水溶性デキサ注、フルニキシム、ジクロフェナク、メタカム等です。一度使用してみて、状態が変わらないか悪化する場合は獣医師の往診をお勧め致します。例えば、子牛で呼吸が速いとき、とりあえずバイトリルワンショットだけ投与するのはお勧めできません。

さいごに

原因をしっかりと特定したい場合は、検査も可能ですし、実際その薬がその農場で効果があるのかも調べることもできます。高価な薬を使用することに意味があるのか、今一度検討してみてください、お近くの獣医師と相談することをお勧め致します。

今年最後のM情報となります。今年一年、大変お世話になりました。来年もよろしく願い申し上げます。

小方 可奈江



Total Herd Management Service